

第3回文京区アカデミー推進協議会

日時：平成25年12月18日（水）

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター21階

2101会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第3回 文京区アカデミー推進協議会 会議録

(敬称略)

「委員」

会長 水越 伸
副会長 久松 佳彰
委員 青木 和浩
委員 野口 洋平
委員 白鳥 宗一
委員 佃 吉一
委員 小林 博
委員 野村 宣子
委員 小野澤 勝美

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課長 山崎 克己
アカデミー推進部観光・国際担当課長 工藤 真紀
アカデミー推進部スポーツ振興課長 古矢 昭夫

※以下、「協議会」「推進計画」とは、それぞれ「文京区アカデミー推進協議会」「文京区アカデミー推進計画」のことをいう。

○事務局：出欠状況の確認。

○会長：開会のあいさつ。

○事務局：(資料の確認)【資料1】が事務局で取りまとめた進行管理表となる。

【参考資料】として、第1回の時にお配りした取り組み結果について数値・文言に修正があったため、改めて配付する。また【参考資料】として、基本構想実施計画の素案を配布する。全事業の中から、主な事業や新規の事業を載せている。

○会長：(実施計画の素案は)重要だと思う。

○委員：時間があれば触れたい。

○会長：残りの事業は、バックヤードの事業ということか。

○委員：そのとおりです。

○会長：まず、分科会の内容を確認する。その後、分野横断型について議論する。一分野につき、10数分で進めたい。生涯学習から説明する。

(生涯学習に入る。【資料1】1～3ページ参照。)

まず、1ページめについては、概ねしっかり活動されていると言える。一方で、大学連携に関して、大学担当者と連携していくような仕組みを持つべき。各講座の実施時間帯を考え直し、ウィークデーに働いている人が参加できるようにすべき。2ページめについて、広報紙（スクエアなど）よくできているものがある。その一方で、全体で俯瞰できるような情報発信をしていくことに強い要望がある。相談面について、全体としてあまり十分に展開されていないため、人を活用したい。IC タグについても議論があった。3ページめについて、概ねしっかり活動されている。他方で、窓口の体制の充実が図られるべきであろう。体験フェアは重要な活動。新しく入ってくる人に向けての相談体制をしっかりすべき。特に、文言について抜けているところ、強調したいところをご指摘いただきたい。他分科会に参加した方、事務局の方からも意見があればお願いしたい。

○委員：テープ起こしで生（なま）の声を記載した。多少加工した部分もある。IC タグの話については、動き始めた時期があったが、文京区の図書館では実際には費用対効果の観点から見ると、難しい。

○事務局：IC タグについては（議論の中で）触れられたという程度。

○会長：あまりICタグについてもめたことはなかったのか。そのものについては聞いたが、費用対効果の面の議論はなかった。

○事務局：その時は議論されてなかったが、実際には課題になっているということは聞いている。

○事務局：議論になったということではなく、事実として課題があるという書き方になっている。

○事務局：3枚目の評価で「一定の知識を…」とある。生涯学習司が十分いるのに使われてない、というニュアンスか。そもそも数が足りないというニュアンスなのか。

○事務局：生涯学習司はいるが、相談窓口がきちんと整備されていない。

○会長：やや一般的に、「窓口体制を充実させるべき」という書き方にした方がよい。IC タグについては、費用対効果の話はしていなかったため、我々が言ったと書かなくていいのでは。IC タグは、費用や時間かかるのか。

○委員：（費用や時間が）かかる。

○会長：「費用対効果で検討する」とは言っていなかったので、削ってもらっていい。

○委員：事務事業評価に書いてあったので、「そうだ」という思いだった。

○会長：それがあったこともあり、我々が特に取り上げなかった。あと、大学連携について、学長が19人そろそろ儀礼も大切だが、具体的なタスクフォースの場を設け、意思決定ができるようにする必要がある。「文京区に大学が多いため」という文言を付け加えた方がよい。

○委員：もっと連携の講座を増やすべきか。

○会長：それもあるが、学長の会合のみでは何も進まないということである。

○委員：学長の会合は儀礼的なもの。年に一回、実務者の会議も行っている。講座も結構

な量をお願いしている。

○会長：そうだと思うが、数ある大学を全体としてどう配置し、どう戦略的に活用していくかが重要である。個別の連携はなされていると思うが、ルーティンになっている。全体的に活用できる場が必要。

○委員：コンソーシアムを作って連携をしていくということか。区としてはお願いをしているが。

○会長：その話です。ただ、コンソーシアムという単語は出ていないため、コンソーシアムとは言わない方がいい。

○委員：そういった連携を区が主体的に取っていくべきと捉えてよいか。

○会長：そうです。我々から見ると、文京区は一個しかないが、文京区は大学が19か所ある。各講座をやってもらうことはできる。大学をくっつけたり離したりしながら、配置していく必要がある。大学における地域教育（サービスラーニング）が出てきている。両方の関係性を考えると、いい意味で区の方が戦略的に関係性を考えた方がいい。

生涯学習は比較的しっかりなされている。課題点もはっきりしている。ただ、アカデミア講座、一日体験フェアについては、当日の参加者からも評価の声がある。

（続いてスポーツに入る。【資料1】4～7ページ参照。）

○委員：生涯学習と議論としては同じ。事業自体はしっかりしている。稼働率も高く、多くの人たちが参加している。指定管理が入って、サービスなどしっかりしている。「連携」ができそうでできない部分がある。情報が伝わっておらず、新しい層を取り入れることができていない。指導者の高齢化・マンネリ化が生じている。スポーツのよさをどう発信していくのか、というところが必要ではないか。

○会長：体育館の稼働率がものすごく高い。これ以上は難しいくらい、しっかりしたことをされている。一方で指導者の不足や高齢化、情報提供などの点で課題がある。4ページから7ページのところで何かあれば、お願いしたい。

○委員：5ページのスポーツ交流ひろばの部分。「運営に携わる区民と学校側の」コミュニケーションが不足しているのではなく、学校の副校長が変わったりすることで、運営の仕方が違ってくることがある。一概にコミュニケーションが不足しているとは言えない。

○事務局：3番目の4番目の文言の整理が必要。

○委員：運営に携わる区民と行政の連携をとってもらい、スポーツ振興課と教育委員会が連携をとってほしい。

○委員：管理職が変わると対応が変わってくるというところで、区としてのコンセンサスがとれていないと言える。

○委員：来年度から対応するような方策も考えている。今、青少年委員を我々の所管でやっている。その方々の役割を学校に特化した形で配置し、地域と学校のパイプ役を担ってもらう。

○会長：スポーツ推進委員とは、別のルートで経常的に配置するということか。

- 委員：そのとおりです。区民の立場としての意見を伝えていただく。
- 会長：その部分に関して、文言の修正をお願いしたい。
- 委員：運営委員会というのは、学校と運営委員会が直接やり取りをしているのか。
- 委員：直接やっている。
- 委員：今行政が入って、ということをやっていたが。
- 委員：運営委員会の所管部署はスポーツ振興課にあるが、実際の開放体制などについては、運営委員会・学校側で直接やり取りをしている。学校（副校長）によって、温度差が区内でもあることは、問題だと思っている。
- 委員：人数を増やそうとしている中で、開放をたくさんやらないと増えていかない。その中で副校長がブレーキをかけると、スポーツの機会も減ってしまう。
- 委員：教育委員会がどうあるべきか、という議論が行われている。首長の権限をどうするか。教育する場では独立性が大切で、区がそれを犯してはいけないとされている。最近では、教育委員会も区長の権限のもとに入れたほうがよいのでは、という意見が多くなってきている。
- 委員：施設の設置者は区。学校は施設の設置についてまで、言及していいのか。
- 会長：そのほかいかがでしょうか。青木先生いかがでしょうか。
- 委員：概ねあっている。稼働率は高いが、同じ人が使っている。違う層をどう引き寄せるかというところで、福祉など、違う切り口からの参加者を入れたほうがいいのでは。
- 会長：6ページの部分。いつでもどこでも楽しめる状況はできている。ただ、日ごろ親しんでいない方にも親んでもらえるというところで課題がある。今までやっていない人にスポーツをやってもらいたい、ということを書いた方がよいのでは。
- 委員：新規参加者ということか。
- （文化芸術に入る。【資料1】8～10ページ参照。）
- 会長：文化芸術については、充分実施されている。いくつかの事業について、出展者が減少している部分がある。新規参加者を増やすにはどうすればいいかを考えるべき。情報提供については、生涯学習と被る部分がある。俯瞰的な情報提供をすべき。2ページめについては、該当なし。情報提供・相談体制をしっかりとさせていくという取組を。3ページめについては、映像資料の調査・保存を継続的にやるべき。文化芸術のイベント等はしっかりとやっているため、アーカイブ事業についてしっかりとっていく必要がある。また、9ページで「非常に脆弱」とあるが、「非常に」はいらないのでは。「手薄」という言い方がよいのでは。
- 委員：本来は、社会教育主事が行政の中に一人はいる必要がある。それが、相談窓口となる専門職となる。アーカイブについては、この表現でいいのか。
- 会長：全体的に文言をすっきりさせた方がよい。アーカイブに関しては、3年間で一定の成果を得られていることは、評価した。矛盾はないと思う。
- 委員：活用も入れた方がよいのでは。掘り起しだけだと限界がある。

○会長：そのとおり。発掘、保存に加え、活用が重要である。1番目と2番目の項目で内容が重なっている。発掘、保存、活用は別々の話ではなく、循環しているものと考えらるべき。文言に、「活用」を加えてほしい。スクエアに限らず他のチラシもしっかりしているということは、加筆しておくべきでは。特に文化芸術に関しては、いいチラシがたくさんある。ただ、あれこれチラシがあるからわからなくなる。

(次に、観光にいきたい。【資料1】11～14ページ参照。)

○委員：観光については、4つの柱がある。1つめについて、既に観光資源として認知されているもののPRはしっかり行われている。ただ、発掘については、今後もっと力を入れるべき。学校が多いということ、区のイメージにどうつなげていくかという議論もあった。観光イメージが狭く中高年向きのため、若者にアピールするような取組みが必要では。2つめについては、お祭りについては交流のチャンスで、取組が行われていると言える。今のトレンドは、広域連携。文京区のみではなく、隣接している市区町村でやる必要がある。また、MICEの取組が丸々抜けている印象があるため、今後議論していく必要がある。高等教育機関を資源と捉えて、観光事業に取り組むべき。3つめの情報発信については、観光協会を通じて観光リーフレット発行等が行われており、一定の取組がなされていると言える。フィルムコミッションについては、新たな集客につながるため、継続して行っていくべき。一方課題として、入込客数など、データを収集・把握することも必要かもしれない。4つめについて、ボランティアガイドの仕組み、連携は以前から進んでおり、一定の成果が上げられていると言える。募集は隔年だが、情報提供は毎年やった方がいい。飲食業界との連携など、短い滞在時間にどう楽しんでもらうかを考えるべき。小学校など教育現場で、副読本のようなものを製作するのもよいかもしれない。分科会の際に感じたのは、観光が多分に分野横断的だということ。さらなる横の連携をすべき。

○委員：MICEについては、スポーツ分野での国際会議など現在進みつつある。

○委員：最近では旅行会社がMICEを取ってくる人が多いので、旅行会社とのパイプを作る必要がある。

○会長：MICEは何の略か。

○委員：Meeting (会議)、Incentive tour (ご褒美ツアー)、Convention (会議)、Event (イベント) の略。

○事務局：12ページの「産業振興」の前に、「他地区との連携性」という文言を付け加えるべきでは。

○会長：話し合った内容であれば、付け加えるべき。

○委員：文言について、「検討されたい」「望ましい」「期待する」「評価できる」など、文言が度々出てくるが、言葉のトーンがばらばらになってしまっているため、基準を決めて統一した方がいいのでは。

○委員：趣旨を変えないようにしながら、整えたものを再度お出ししたい。

○会長：最終的には文言のチェックをやりたい。

(次に、国際交流に入る。【資料1】15～17ページ。)

○副会長：まず、国際理解については、講座の開催日数が少ない。増やすにあたっては、大学の講座を区で認定し、情報発信を行うとよいのでは、という議論も。情報発信について、観光インフォメーション窓口もかかわってやっていく必要があるのでは。アンケートの活用も行っていくべき。姉妹都市の交流について、振り返りを行う等して次に生かせる工夫にする必要がある。生活支援等は、様々な部署が幅広く行っている。情報を集約して早く情報にたどり着けるようにする必要がある。

○委員：留学生をもっと活用すべき。

○会長：16ページのところについて、2番目と3番目の順番を入れ替えた方がいいのでは。

○副会長：確かに。議論の順番になってしまっている。

○会長：次に分野別横断型プロジェクトに入るが、5分野について言い残したことは。

○副会長：「潜在的なニーズ」について明示的に（評価表に）加えるという合意だけした方がいいのでは。

○会長：文字数でいうと、「新規参加者」がいいのでは。「新規参加区民」だと、意味が異なってくる。

○委員：スポーツ分野の6ページについて、サッカー協会について、上の項目では「高く評価できる」、下の項目では「必要である」と記載されているが、どんな違いがあるのか。

○事務局：議論の流れだと、「けれども」という意味合いがある。「現状として、より一層進めて行ってほしい」という意味合い。

○委員：相反するわけではないのか。

○会長：文章を一つにまとめた方がいい。「より一層展開をしてほしい。」と結ぶべき。

○委員：巨人軍やサッカー協会については、特筆するべきものとして書いている。他のものもいろいろある。

○委員：特に、鑑賞型の事業が多い。大学等を交えた協働事業は少ない。

(分野別横断型プロジェクトについて。【資料1】18ページ)

○会長：150年記念事業の説明をお願いしたい。

○事務局：説明は（第1回目の際に）した。議論は少ししか出なかったもので、本日再度行う。参考資料として配布した31、32ページが該当する。事業としてはこれだけ幅広く実施した。

○会長：分科会でやったような形で、10分ばかりご意見をいただければ。

○委員：もともと、一つの部でやった方が、5分野の横断的な取組ができるという趣旨で作った。せっかく集まっているのに、事業が少ないというご意見もあるかと思う。今はたまたま鷗外の事業が取り上げられているが、これから実施していくべき事業として、オリンピック・パラリンピックが挙げられる。観光・スポーツなど、全ての分野が絡んでくる。

○会長：推進計画において、そもそも横断プロジェクトはどう位置づいているのか。「その

他」のような位置づけか。

○事務局：部長が説明したような趣旨で取り組むべきとしている。

○会長：計画の体系には入っていない。各論でいきなり出てくる。

○事務局：このようなプロジェクトをやることによって、計画が進むというプロジェクト例になっている。

○副会長：実際に、オリンピック・パラリンピックについて、アカデミーとしては、分野横断型でいこう、ということにはなりそうか。

○委員：庁内の会議の中では、アカデミー推進部中心でやっていくということになっている。

○会長：鷗外に関して、いっぱい事業をやっている。本当に力を入れた。第一回目の時は、次どうするのかという話をしてきた。その時にはオリンピックのことは、決まっていなかった。他方で7年先のことも確か。本来は、真ん中に横断型があって、5つの房があるという意識があるといい。それぞれ5領域が頑張っている。横断の活動をやるとなると、別途の予算、人がつかないとそれ以上無理なのでは。それをいうと、横断プロジェクトをしっかりと位置づけるための基本的論理を用意すべき。

○委員：たとえば、生涯学習司の講座自体は生涯学習、修了した人を活かす場は観光・文化分野で実施されている。分野がリンクしているという意識を持つことは心がけている。

○会長：連携しているものをアウトプットする措置が必要。オリンピック・パラリンピックは23区全部が同じトーンでやる必要がない。オリンピック・パラリンピックの歴史など、文京区的にやることもある。ちょっと引いた視点で、オリンピック・パラリンピックについて見る必要がある。

○委員：言語表示の共通化など。競技場でない文京区が何をすべきか考える必要がある。

○委員：違う視点で考えるべき。お金やボランティアの数など、そういう方向の方がいいのでは。

○委員：流れはシミュレーションしているのか。

○委員：輸送関係、大会役員等については、来年度までに固めようという大枠を話し始めた。野球が決まっていない。決まればドームにくると想定している。

○委員：国際会議、観光、調査など、選手以外の層については4、5年前から動き出す。講座の中で日本人を見直すという視点が必要。切り口は山ほどある。

○委員：上野公園をキーワードにした観光エリアについて、現在文化庁が考えている。

○会長：18ページの書類をどうするか。1つめの項目につける。2番目については具体的、個別的なので、これを入れる必要があるのか。3つ目は言っていることの意味がわからない。鷗外の一連のプロジェクトについて、関心の薄い人もきた。2番目と3番目は不要では。分野横断型をどう位置づけるかをしっかりと議論する必要がある、ということを書くべきでは。昨年度の評価になるので、あまりオリンピック・パラリンピックについては触れなくていいと思う。

○委員：鷗外はあくまでの例示となります。

○委員：最初に鷗外の議論したときに、土産品について質問した。文京区の観光分野は、経済効果を狙うことを議論できないセクション。今までは利益を考えずにやってきたが、規模が大きくなる分だけ、経済効果も考えていく必要がある。さらに、部を超えた連携が必要。オリンピック・パラリンピックについては、大所帯に構えて大丈夫なのか点検した方がいい。たくさんやった事業の中で、どれが単発でどれが継続するものかという計画を知りたい。

○会長：一過性のものもあれば継続しているものもある。

○委員：継続しているものについては、経済的なメリットを追求してやっている部分もあるのでは。

○委員：鷗外の里については、継続的に販売。ほとんどの事業が単発。森鷗外記念館をいかに継続事業の拠点としていくかを考えていきたい。

○会長：そういうことでいいと思う。

一応、分野横断型についても議論した。今後のことについてご相談したい。議論を踏まえて、区の方で修正。その上で、各分野に関しては有識者が総評を記入。公表の前に、みなさんに再度確認していただく。5分野のさらに上の総評は必要か。

○事務局：課内の議論では、不要だと考えている。それぞれの分野で総評があれば。

○委員：もっと早くやるべきだという意見は、上の議論になるのでは。

○会長：分野横断型プロジェクトの評価についても同様だと思う。

○事務局：お願いできれば。

○会長：どのくらいのスケジュールになるのか。

○事務局：1月末に固まっていた方がいい。推進本部を一回開催する。

○委員：文言を修正しつつ、総括を書いていただくことも可能ですか。

○委員：ある程度分量、小見出しがあるといい。

○会長：端的に書いた方がいい。

○会長：評価できる点、課題、総括について、A4 1枚くらい書く。1月中下旬に提出。

○副会長：4人でA4 1枚くらいに収めるようにするのも一つの手か。

○委員：「詳しくは評価表をみてくれ」という形にするか。評価表を見ないで、総括表だけである程度内容がわかるような形にするか。

○会長：基本は「これを見てくれ」という立場。課題点、評価点、個人の意見を載せておいた方がよい。字数は1000字以内で。

○会長：今後のことについて、ご意見はあるか。

○事務局：(実施計画(抜粋)について説明。)

○会長：協議会の目的は、1年間実施したものを評価し、計画に反映させるためのもの。そのラインが繋がっていないと、会議をやる意味がない。また、ほぼ1年以上前のものを今評価するのは、時期的に遅いのではと思う。

- 委員：来年は早めに開催したい。また、計画策定の会議体にもしたいと考えている。
- 会長：どの会議体でも26年度のことについては、25年度のうちに相談して進める。
- 委員：11月の分科会で、参加人員は増えているが新規参加者は増えていないという議論があった。去年の会議でコメントしたことばかりが議論されている。方法の検討が手薄だったのでは。
- 会長：会議体が、現仕組みの中で予算措置や人員等にどのようにインパクトを与えられるか、スケジュールを含めて考えるべき。中長期的には、会議体自体の意味合いや事業の在り方を考える場にしていきたい。
- 副会長：来年度早めにやれることになった時に、我々の意見に対して、「こうリアクションしようと思っている」ということについても言及してほしい。
- 事務局：評価を受けて、来年度改善したとしている点、ということか。
- 委員：それは重要だと思う。
- 事務局：今年で委員の任期が切れるので、次年度以降については引き続きお願いしたり、新たに公募したりして委員を決定していきたい。
- 会長：これで、第3回の協議会を終了する。